授業科目	障害者心理学					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	水貝　洵子						
授業概要	障害がある人の心理特性を理解し、彼らが抱える問題や困難に対する心理的援助について解説する。また障害がある人と共に生活する家族の支援について説明する。さらに障害者自身及び家族の障害受容のあり方とその対応について解説する。						
授業形態	講義			授業方法			

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．学際的及び医学・福祉学・教育学的立場からの障害の定義について説明することができる。 2．様々な障害のある人の心理特性について説明することができる。 3．障害受容の諸説について理解し、説明することができる。
理想的レベル	1．学際的及び医学・福祉学・教育学的立場からの障害の定義について整理して正確に説明することができる。 2．様々な障害のある人の心理特性を理解した上で、適切な援助について考えることができる。 3．障害受容の諸説を理解し、適切な援助について考えることができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	70%	
小テスト		
レポート	25%	毎授業にて提出を求める質問感想シートを指す
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他	05%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21410J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
該当箇所の復習	4

授業計画

第 1 回	テーマ：障害とは1 「障害」に関する学生の知識を小レポートによって把握する。WHO による障害の定義について解説する。
第 2 回	テーマ：障害とは2 発達援助の原則について解説する。
第 3 回	テーマ：視覚障害児・者の理解と心理的援助 視覚障害の定義、心理特性、発達援助、心理的援助、家族への援助について解説する。
第 4 回	テーマ：聴覚障害児・者の理解と心理的援助

	聴覚障害の定義、心理特性、発達援助、心理的援助、家族への援助について解説する。
第 5 回	テーマ：知的障害児・者の理解 知的障害の概念に関する歴史的変遷、定義と分類、疫学、合併症について解説する。
第 6 回	テーマ：知的障害児・者への心理的援助 知的障害児・者への援助の全体像、臨床心理学的援助(心理アセスメントと心理療法、発達援助法)について解説する。
第 7 回	テーマ：肢体不自由児・者の理解 肢体不自由の定義、脳性まひの定義及び分類、随伴症状、発達特徴について解説する。
第 8 回	テーマ：肢体不自由児・者への心理的援助 医学的方法(ボバース法とヴォイタ法)と心理学的方法(動作法)を挙げ、両者の基本的考え方について解説する。また家族援助の実際について解説する。
第 9 回	テーマ：病弱児・者の理解と心理的援助 病弱の定義、病気の概要と病弱児・者に対する心理的援助について解説する。
第 10 回	テーマ：発達障害児者への理解と援助１　注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害 発達障害の定義、注意欠如・多動症の定義、心理特性、心理アセスメント、心理的援助について解説する。
第 11 回	テーマ：発達障害児・者の理解と心理的援助２　自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 自閉スペクトラム症の定義、心理特性、心理アセスメント、心理的援助について解説する。
第 12 回	テーマ：発達障害児・者の理解と心理的援助３　限局性学習症/限局性学習障害 限局性学習症の定義、心理特性、心理アセスメント、心理的援助について解説する。
第 13 回	テーマ：障害の受容について１ 障害受容の理論について解説する。
第 14 回	テーマ：障害の受容について２ 障害当事者および親・家族に対する告知の在り方及び告知後の対応について解説する。
第 15 回	テーマ：まとめ これまでの学習内容の振り返りを行う。
テキスト	指定なし。毎回レジュメを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『障害特性の理解と発達援助　教育・心理・福祉のためのエッセンス』 舜地勝人・蘭香代子・長野恵子・吉川昌子（編）　ナカニシヤ出版 『障害児・障害者心理学特論』 佐藤新治・田中新正・古賀精治著　(財)放送大学教育振興会 『発達障害と家族支援　家族にとっての障害とはなにか』 中田洋二著　学研 他、講義中に適宜提示する。
課題に対するフィードバックの方法	レポートを通じて出された授業内容に関する質問やコメントについては、適宜授業内で紹介し回答を示す。

学生へのメッセージ・コメント	基礎心理学および発達心理学に関する知識を有しておく必要がある。そのため、心理学と心理的支援Ⅰ，Ⅱ，発達心理学Ⅰを受講していることが望ましい。 障害児者に関する文献、書籍を読んだり、積極的にボランティアなどに参加することが望ましい。